

平成29年度 横浜国立大学大学院国際社会科学府
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者コースA日程入学試験

刑事系科目

時間 11:00～12:15

●注意事項（よくお読みください）

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 自分の受験番号と机の上の受験番号が同じであることをよく確かめてください。
3. 時計のアラーム、携帯電話等の電源は切ってください。
4. 机の上に置いてよいものは、①受験票、②筆記用具（鉛筆、ペン、消しゴム）、③鉛筆削り（電動式を除く）、④時計（携帯電話やPHSを時計として使用することは認めない）、⑤メガネ、⑥目薬、⑦ティッシュペーパー、⑧ハンカチです。これらは、予め机の上に置いておいてください。
5. 上記4で掲げた試験のために必要なもの以外は、かばんに入れて椅子の下に置いてください。電源を切った携帯電話も、身につけず、かばんに入れてください。
6. 配布物は、①問題冊子、②解答用紙、③下書き用紙、④六法の4種類です。足りないものがあったら、挙手で合図し、試験監督にその旨申し出てください。
7. 解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入してください。解答用紙は、全部で3枚あります。そのすべてに受験番号と氏名の記載欄がありますので、漏れなく記入してください。なお、解答用紙はホチキスで綴じられていますが、その針は外さないでください。
8. 試験問題は、問題1～3の3つがあります。必ず指定の解答用紙を使ってください。解答用紙はそれぞれ両面になっています。
9. 試験時間は、75分です。中途退席は原則として試験開始後40分まで認めません。また、中途退席者は、再度入室することができません。試験終了直前の10分間も退席できませんので、よく注意してください。ただし、気分が悪くなったときや、トイレに行く必要があるときなどは、近くの監督者に挙手で合図し、遠慮なく申し出てください。
10. 試験開始後、受験者本人であることの確認（写真照合）を行います。その際は、監督者にご協力ください。

以下の3問、問題1から問題3にすべて解答せよ。

(配点：全問とも50点)

問題1

以下の事案を読み、Xの罪責を論じなさい(特別法については論じなくてよい)。

X男は理工学部出身の技術者であったが、日頃からA男を恨んでいた。XはAにいやがらせをしてやろうと思い、Aが働く建築現場の簡易トイレに市販の花火を改良した簡単な発火装置を取り付けた。

平成28年9月1日17時頃、Xは、Aが簡易トイレに入ろうとすることを確認して、10メートルほど離れた建物の陰から、発火装置を遠隔操作して爆発させた。この爆発で、Aが傷害を負ったほか、かくれんぼをしてトイレ内に入り込んで隠れていたB男も傷害を負った。なお、発火装置は非常に簡単な作りのもので、周囲1、2メートル以内にいる人間にしか、傷害を与えることはできないものであった。また、当該トイレは男女兼用の1人用の狭いもので、Xはトイレ内およびその周辺にはA以外には誰もいないと考えていた。

問題2

以下の事案を読み、Xの罪責を論じなさい(特別法については論じなくてよい)。

Xは、A市議会で審議中の迷惑行為防止条例案の成立を阻止しようと考えた。そこで、市議会議長が条例案の採決を行おうとした際に、傍聴席から、爆竹をならして、「反対! 反対!」と大声で叫んだ。

このXの行為により、議場は一時騒然とし、議事の進行が妨害された。

問題3

告訴不可分の原則の意義とその例外について説明しなさい。